平成３０年度

全体研究構想図

恵那市立恵那西中学校

＜学校の教育目標＞

基本を身につけ，
粘り強くやりぬく生徒

＜恵那市学校教育の教科指導における重点＞

主体的に取り組む授業づくりをする

＜生徒の実態＞

○自分たちで授業の課題を立て，話し合いながら整理し，発表できていると実感している。(84.7%)

○仲間と話し合うことで，自分の考えを深めたり広げたりすることができていると実感している。(71.0%)

H.29 岐阜県学習状況調査による

●授業で学んだことを，他の学習や普段の生活に生かすことができていないと感じている生徒が多い。(47.2%)

H.29 全国学力・学習状況調査による

＜授業で生み出したい姿＞

〈主体的・対話的な姿〉

＊課題をつかみ，目的意識や見通し・願いをもって，学習活動に取り組む姿。

＊課題に対する自らの考えを明確にもち，他者との学びから考えを広げ深め，自己の変容を自覚できる姿。

〈課題解決できる姿（深い学び)〉

＊基礎的・基本的な知識や技能を活用しながら，自らの思考力，判断力，表現力等を働かせ，課題を解決する姿。

研究主題

生き生きと学び続ける生徒の育成

～主体的・対話的に学びながら，一人一人が課題解決できる授業づくりを通して～

研究仮説

単元を貫く課題をもとに，「習得」と「活用・探究」の学びのつながりを明確にした単元構成と，課題解決のための課題の焦点化と学びの視覚化を工夫するとともに，「３つの見届ける」を大切にしながら，自らの伸びを実感できる「定着状況」の見届け方を工夫すれば，主体的・対話的に学びながら探究し，一人一人が課題解決できる授業となる。その過程の積み重ねで，生き生きと学び続ける生徒を育成することができる。

＜研究内容１＞「習得」と「活用・探究」の学びのつながりを明確にした単元構成の工夫

・教科で働かせる見方・考え方を踏まえた単元を貫く課題を設定し，相互的なつながりのある単元構成を工夫する。

・社会生活や生き方への活用を促す，単元出口の授業を位置付ける。

＜研究内容２＞一人一人が課題解決できる手立ての工夫

①一人一人が課題解決に向かうための主体的・対話的な学びを促す工夫

・課題の焦点化…どのような力を付けるのか，何を考え深めるのか課題を明確にする。

・学びの視覚化…自分や仲間の学びが分かる思考の視覚化を工夫する。

②学びの状況を実感できる授業終末の工夫

・「定着状況」の見届けと，自らの伸びを実感できる授業終末の方法を工夫する。

研究の基盤（確かな学級経営と教科横断の共通指導，PDCA サイクルを意図した指導）

①互いに認め，高め合える学級集団の育成　②生徒の自治的な活動の推進　③基礎・基本の定着